

【受賞報告】 2019年10月6日（日）に開催された、4th International MIST Congress（国際最少侵襲脊椎治療学会）において年間最優秀論文賞を受賞

2019.12.9 更新

このたび、2019年10月6日に東京で行われました4th International MIST Congress（国際最少侵襲脊椎治療学会）において年間最優秀論文賞を受賞することができましたので、報告させていただきます。このような栄誉ある賞を頂き、大変光栄に存じます。今回受賞した論文は「Association between skin trouble of percutaneous pedicle screw and subcutaneous vascular structures using MRI study in patients after thoracolumbar fractures.（MRIのSTIR画像を用いた胸腰椎破裂骨折手術症例における皮下血管評価と皮膚切開部位皮膚障害との関係）」という論文名でした。本研究は脊椎を固定する器具であるPedicule screw（PS）を用いて脊椎手術を行った胸腰椎損傷例の術前MRIのSTIR画像における皮下血管構造を後ろ向きに調査し、皮膚障害との関連を検討したものです。皮下血管構造はSTIR画像の矢状断像にて椎弓根高位でScrew刺入部の皮下に高頻度に認めました。除圧のための正中縦皮切と経皮的PS挿入のための傍正中の縦皮切の併用は、この皮下血管構造を損傷し、血流障害を生じ、創傷治癒に影響を与えることが示唆されました。このことは、今後の脊椎手術治療において非常に参考になる結果だと思います。この研究は、皮膚壊死の合併症が生じた際に、整形外科カンファレンスで、なぜこのような合併症が生じたかと、石橋教授に指摘していただいたことが始まりです。Screw刺入部位の解剖の教科書を読みなおし、MRI所見を見直し、皮下血管構造の存在と、Screw挿入による損傷リスクがあることに気づきました。この結果を学会発表、論文化まででき、優秀論文賞としてご評価いただいたことは、非常にうれしく思います。最後になりますが、ご指導くださった石橋恭之教授をはじめ、関係者の皆様に深く感謝を申し上げます。

最後に、本研究を行う上でご指導・ご支援をいただきました石橋教授をはじめ大学スタッフの皆様にこの場を借りて感謝申し上げます。



授賞式にて

写真は右から青森県立中央病院の富田卓先生、私、選考委員長の関西医科大学小谷善久先生